

# 浚渫工事の工程管理及び地域対策について

下田地区  
河津建設株式会社  
土木部 伊豆澤 憲二

## 1.はじめに

工事概要  
工 事 名 : 平成30年度[第30-W6511-01号]下田港防災・安全交付金  
【港湾改修事業等】工事(浚渫工) (11-01)  
発 注 者 : 静岡県下田土木事務所  
工 事 場 所 : 下田市港内地先  
工 期 : 2019.3.19~2019.11.15  
工 事 内 容 : バックホウ浚渫  $V=6,488\text{m}^3$   
土運船運搬  $V=6,488\text{m}^3$

・本工事は下田港泊地の浚渫工事である。

### 発注図



## 2.現場における問題点

本工事の施工方法は海洋投入処分である。

年間排出量に制限があり、年度上限の排出制限を満たす事が必要となり。工程管理が課題となった。

## 3.現場で行った対策

### 1.地元船舶との係留場所

- ・本工事の施工箇所には地元漁船が係留しており作業開始前に船舶の係留場所移動が必要であった。

### 2.干満の差による土運搬船の航行時間

- ・浚渫施工箇所、下流部の測量
- ・土運搬船の満積時の喫水の確認

### 3.海象状況の把握

- ・羅針盤(海象情報サイト)
- ・台風発生状況の確認

### 1.作業開始前に、地元船舶に工事説明を行い内容について、周知を行った。

地元漁船の移動先確認し安全な係留場所の確保を行った。

### 2.浚渫施工箇所、周辺は地盤が非常に浅く、土運船満積時に移動が困難な潮位があった。

- ・現場周辺を音響測深機を使用し、深浅測量を行い現況地盤図を作成した。
- ・土運船満積時の喫水を図り(-2.0m)水中に沈む事を調べた。
- ・上記対策を行い、DL+1.0mの潮位以上でないと土運搬船の移動が困難だという事を把握し潮位表と現場の潮見表の確認を行い早出、残業時間を決定し1日当りの作業効率アップを図った。

### 3.海洋投入箇所の海象状況は非常に悪く、荒天待機の多い現場であった。

海象状況の把握及び作業中止基準の検討

- ・日々日常管理として海象情報(羅針盤)を確認し排出海域の気象海象状況の把握を行った。
- 又、海上保安庁からリアルタイム風速情報を確認し作業中止基準である風速10m/S以下で海上運搬が行えるか確認した。
- ・波高が大きい場合は曳船のみで海象状況の確認を行う事とした。

上記、対策を実施しロス無く海洋投入作業を行う事ができ工期内に工事を完了する事ができた。

## 4.おわりに

本工事では、上記対策を行い、地元関係者周知。現場周辺の現況地盤状況確認、潮位の確認及び土運船の満積時の喫水確認、海洋投入時の海象状況の把握を行い、無事故無災害で作業を終了する事ができた。また地元船舶関係者の協力もありスムーズに工事を完了できた事にありがたく思いました。